

重点プロジェクト報告（R6年度分）

“NIFS NEXT 30”アクションプランVer.1における取組：多角的、国際的に、
スポーツ・武道の新たな文化的価値を探究する【R5～R6】

本プロジェクトの令和6年度では、“NIFS NEXT 30”アクションプラン Ver.1の「研究」「国際化」ミッションに基づき、異分野、異領域からのアプローチにより、文化的価値と可能性を多角的に検討し、国際的な発信を目指した。具体的には、外国人柔道選手の日本文化研修を行い、また、スポーツ・武道の文化的価値を探究する国際共同研究を推進するなど、実践的な取組と研究成果の蓄積を重点的に行った。

事業実績

令和6年度、オランダ柔道チームおよびイギリスの女性柔道家を対象に、薩摩藩の歴史・郷中教育を体験するミニツアーを実施。仙巖園の見学、示現流の体験を通じて、伝統文化への理解を深めた。本学の学生・教員との交流を通じて、武道の文化的背景と国際的価値を共有する機会となった。

オランダの柔道クラブチームの日本文化研修

オランダのトップレベルの柔道クラブチーム10名（指導者2名、選手8名）が、令和6年10月17日～23日まで本学柔道部と合同練習を行った。

20日（日）に、本プロジェクトの一環として日本文化研修と題して仙巒園見学、示現流体験を実施した。

20日朝、バスで大学を出発、まず桜島の有村展望所と湯平展望所に立ち寄り鹿児島の特徴的な自然環境に触れた。

桜島フェリーで鹿児島市内に渡り仙巒園で日本の建築文化や鹿児島の歴史を学んだのち、午後は示現流兵法所で鹿児島に伝わる剣術流派の示現流を解説も含め、約2時間体験した。海外の柔道選手は日本文化に興味がある参加者も多く、全員真剣に取り組んでいた。



（中村撮影）

イギリス女性大学柔道選手の日本文化研修

令和7年1月9日から18日までイギリスの女性大学柔道選手1名（Anglia Ruskin大学）が、本学柔道部と合同練習を行った。

12日（日）に、本プロジェクトの一環として日本文化研修を行った。

今回はまず仙巒園に直行した。仙巒園が提供する文化体験のうち、薩摩切子の細作りや弓矢体験を経験した。尚古集成館では鹿児島と彼女の母国イギリスとの深い繋がりに驚いていた。その後照国神社参拝し、天文館でランチを取った後、ショッピングやゲームセンターでフリータイムを過ごした。プリクラやクレーンゲームといったいわゆる日本のポップカルチャーも体験した。その後、フェリーで桜島に渡り、桜島マグマ温泉で温泉体験をした。

帯同した本学柔道部員にも日本文化の意義を再認識した体験となった。



論文・学会発表等※成果の一部を抜粋

年度	発表者	タイトル	学会発表・出版物
2025	森克己	スポーツにおける虐待・ハラスメント	『セーフスポーツ・プロジェクト』（印刷中）
2024	森克己・山田理恵	スポーツにおける子どもの権利保障を考える。	日本体育・スポーツ・健康学会予稿集, 74(0): 70.（科研費による研究成果の一部）
2024	森克己・山田理恵	イギリスのコーチング団体における子ども中心のコーチングを実践するための試み。	日本体育・スポーツ・健康学会予稿集, 73(0): 622.（科研費による研究成果の一部）
2024	山田理恵	『野球のまち』推進事業を支える地域住民の取り組み：スポーツを通じた地域開発の観点から	日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会

今後の事業の展望

2年間の実績に基づき、令和7年度に、NEXT30で実施するとされている国際武道ツーリズム、スポーツ・インテグリティに関する国際シンポジウムを実施する予定である。

プロジェクトメンバー：山田理恵、森克己、国重徹、小澤雄二、前阪茂樹、竹中健太郎、中村勇、小崎亮輔